

○現行計画の進捗状況（R3 実績）及び次期計画策定の考え方等について

1 現行計画（札幌市スポーツ推進計画）の概要について

- 計画策定（改定）時期：平成 26 年（2014 年）2 月策定（令和元年（2019 年）7 月改定）
○計画期間：平成 25 年度（2013 年度）～令和 4 年度（2022 年度）
○施策体系

理 基 念 本	～スポーツの力でさっぽろの「未来」をつくる～ スポーツ元気都市さっぽろ	
	目 標 ・ 方 針 ・ 施 策	
目 標 ・ 方 針 ・ 施 策	1	スポーツの力で「市民」がかがやく
	1	ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進
	1	子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソンのスポーツ参加を目指します
	2	スポーツに親しむための場所や機会を充実させます
	3	ウィンタースポーツを振興します
	2	スポーツを通じた健康増進
	4	スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります
	5	冬季における運動習慣を推進します
	3	様々な形・場でのスポーツ参加を促進
	6	地域での取組を支援し、地域コミュニティの醸成につなげます
	7	スポーツを支える人材を育成し、活動を促進します
	8	トップアスリートやアスリートと連携を図ります
	2	スポーツの力で「さっぽろ」をかえる
	4	スポーツを通じた共生社会の実現
	9	障がい者スポーツを振興します
	10	スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します
	5	スポーツを通じた経済・地域活性化
	11	札幌の特色をいかしたスポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大に努めます
	12	札幌の資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します
	3	スポーツの力で「世界」へつながる
	6	「さっぽろ」の魅力を世界に発信
	13	国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します
	7	世界が憧れるウィンタースポーツの拠点都市へ発展
	14	オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します
	15	札幌ブランド、シビックプライドを醸成します

2 計画の進捗状況

① 事業の実施状況 ※各事業の実施状況の詳細は参考資料 1 を参照

自己評価基準		再掲除く			再掲含む
		R1	R2	R3	R3
◎	当初の予定通り事業を実施できたもの	32	19	22	28
○	概ね当初の予定通り事業を実施できたもの	42	40	41	46
▲	予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの又は当該年度時点で事業化に至っていないもの	5	1	0	0
－	外的要因により未実施のもの又は規模を大幅に縮小したものの	6	25	22	25
◎及び○の割合		87.1%	69.4%	74.1%	74.7%
◎及び○の割合（分母から「－」を除く）		93.7%	98.3%	100.0%	100%

＜実施結果＞

- R3 年度も多く、多くの事業が新型コロナウイルスの影響を受けたが、感染対策を徹底し、実施手法や開催時期の変更等により、**7 割以上の事業を概ね当初の見込み通り実施できた（◎又は○）**
○一方、**外的要因（コロナ）で未実施又は規模縮小の事業（「－」）は約 1/4 に上った**

② 成果指標の達成状況

(1) 成果指標

成果指標			H29 (当初値)	H31・R1	R2	R3 (直近値)	R4 (目標値)
1	スポーツ実施率	①20 歳以上・週 1 回以上（図 1）	56.4%	58.6%	54.9%	57.7%	65.0%
		②障がい者・20 歳以上・週 1 回以上（図 2）	43.7%	52.6%	54.1%	49.7%	50.0%
2	ウィンタースポーツ実施率（18～49 歳・年 1 回以上）（図 3）		20.1%	18.6%	20.5%	19.5%	25.0%
3	直接スポーツ観戦率（18 歳以上・年 1 回以上）（図 4）		43.6%	43.6%	20.0%	22.4%	50.0%
4	ウィンタースポーツ目的の来札外国人観光客数（1～3 月）※1（表 4）		175 千人	116 千人	—	—	98 千人※2

※1：コロナの影響により、R2～R3 年度は「外国人個人観光客動態調査」未実施のため、数値不明。

※2：コロナの影響を踏まえ、R2 年度に 250,000 人から 98,000 人に目標を下方修正。

(2) 各成果指標の達成状況等

1－① スポーツ実施率（20 歳以上・週 1 回以上）

＜現状＞ **当初値から概ね横ばい**で推移しており、直近（R3）の数値は 57.7%（図 1）。

＜分析＞ **〇年代別スポーツ実施率（表 1）**

- ・50 歳代以上と比べて **20～40 歳代の実施率が低い**。
- ・60 歳代以上は実施率が 60% 台で、目標（65%）に近い水準。

〇種目別スポーツ実施率（表 2）

- ・「ウォーキング・散歩」等の**軽い運動や一人でも気軽にできる種目の実施率が高い**。

＜課題＞ 〇屋外での軽い運動の機会が制限される**積雪期間の運動・スポーツ機会の確保や環境整備**

〇20～40 歳代を中心とした**ビジネスパーソン（働く世代）や子育て世代に向けた取組**

1－② スポーツ実施率（障がい者・20 歳以上・週 1 回以上）

＜現状＞ **H30～R2 までは 50% 台**で推移。R3 も 50% に近い水準（図 2）。

＜分析＞ 障がい者スポーツ専用の学校開放（H29.9～）などの取組により、H30 以降は高い水準を維持してきたものと考えられる。R3 の減少については、コロナの影響もあったものと推測される。

＜課題＞ 国と比べて高い水準だが、ここ数年は横ばいであり、**より障がい者スポーツを行いやすい環境整備等**が必要

2 ウィンタースポーツ実施率（18～49 歳以上・年 1 回以上）

＜現状＞ H29 以降、**20% 前後でほぼ横ばい**（図 3）。

＜分析＞ 年代別では **40 歳代以下の実施率が高い**（表 3）。

＜課題＞ **札幌のスポーツ文化の継承や冬季オリパラの開催を見据える観点から、さらなる振興が必要。実施の阻害要因を把握・分析のうえ、効果的な取組につなげていくことが重要。**

3 直接スポーツ観戦率（年 1 回以上）

＜現状＞ R2 以降は無観客開催等、コロナの影響で約半減（図 4）。

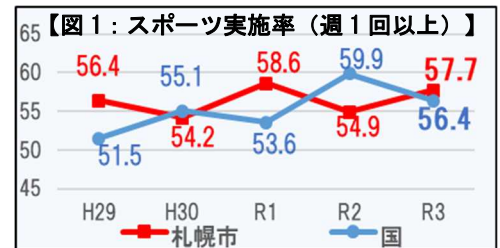
＜課題＞ R 元以前も横ばいだったため、**市民のニーズ等を踏まえた効果的な施策の展開**が必要。

4 ウィンタースポーツ目的の来札外国人観光客数（1～3 月）

4 ウィンタースポーツ目的の来札外国人観光客数（1～3 月）

＜現状＞ R2 年度以降は調査未実施のため、具体的な数値は不明（表 4）。ただし、入国制限により、かなり少数と推測される。

＜課題＞ コロナ後の世界的な観光需要の回復を見据え、**魅力的なウィンタースポーツ環境の構築や効果的なプロモーションの実施等**が必要。

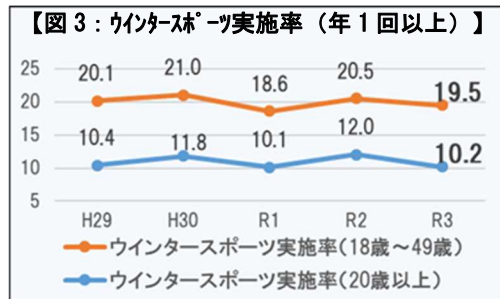
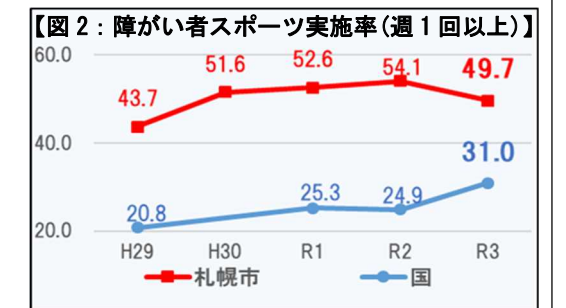


【表 1：年代別スポーツ実施率】

年代	実施率 (R3)
70 歳以上	62.3%
60 歳代	61.8%
50 歳代	59.0%
40 歳代	49.8%
30 歳代	52.6%
20 歳代	53.3%

【表 2：種目別スポーツ実施率（年 1 回以上）】

種目	実施率 (R3)
ウォーキング・散歩	62.4%
トレーニング	27.5%
体操（エアロビクス・ラジオ体操等を含む）	22.8%
自転車・サイクリング	20.0%
ランニング（ジョギング・マラソン）	9.6%
行かなかった	15.7%



【表 3：年代別ウィンタースポーツ実施率】

年代	実施率 (R1～3 平均)
70 歳以上	3.8%
60 歳代	5.0%
50 歳代	9.0%
40 歳代	20.9%
30 歳代	17.9%
20 歳代	18.7%
18～19 歳	21.9%

【表 4：ウィンタースポーツ目的の来札外国人観光客数】

年度	人数 (1～3 月)
H29	175 千人
H30	162 千人
R1	116 千人
R2	—
R3	—

3 次期計画策定の考え方について

次期計画策定に当たって考慮すべき点

○現行計画の進捗状況 ※資料2の1枚目

○社会情勢等の変化

- 超高齢社会の進行
- 価値観の多様化、共生社会実現へのニーズの高まり
- 新型コロナウイルス感染症の世界的流行やそれに伴うスポーツの価値の再確認

○札幌市のスポーツ環境の変化

- 国際的スポーツイベントの開催による国際大会開催経験の蓄積
東京 2020 オリンピック、ラグビーワールドカップ 2019
- 2030 冬季オリパラ招致

計画期間：2022 年度～2026 年度
第3期スポーツ基本計画（スポーツ庁） ※参考資料2

- ①東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展
- ②スポーツの価値を高めるための新たな「3つの視点」
 - ・スポーツを「つくる／はぐくむ」
 - ・スポーツで「あつまり、ともに、つながる」
 - ・スポーツに「誰もがアクセスできる」

今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策	
①	多様な主体におけるスポーツの機会創出
②	スポーツ界におけるDXの推進
③	国際競技力の向上
④	スポーツの国際交流・協力
⑤	スポーツによる健康増進
⑥	スポーツの成長産業化
⑦	スポーツによる地方創生、まちづくり
⑧	スポーツを通じた共生社会の実現
⑨	スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
⑩	スポーツ推進のためのハード・ソフト・人材
⑪	スポーツを実施する者の安全・安心の確保
⑫	スポーツ・インテグリティの確保

- 目標設定（主なもの）
- ・スポーツ実施率（成人） 週1回：70%、年1回：100%に近づける
 - ・スポーツ実施率（障がい者） 週1回：40%、年1回：70%を目指す
 - ・運動・スポーツを継続したい子供の増加
児童 86% ➡ 90%、生徒 82% ➡ 90% など

「（仮称）札幌市スポーツ推進計画（2023～2032）」 ※中間年での見直しを想定

次期計画の内容については、左記の「次期計画策定に当たって考慮すべき点」とともに、第2次まちづくり戦略ビジョンや2030 冬季オリパラ大会概要（案）、市民・スポーツ関係団体からの意見等を参考に、スポーツ推進審議会において、検討・審議

基本理念	目標	成果指標	方針・施策
------	----	------	-------

【次期計画の方向性・キーワードのイメージ（叩き台）】

- 多様なニーズを捉えたスポーツ環境整備
 - ・気軽にスポーツ参加できる環境づくり、身近なスポーツの場の維持・確保、アスリートの発掘・育成 など
- スポーツを通じた健康増進
 - ・スポーツにより得られた医科学的知見の普及啓発、情報発信の強化・多角化 など
- スポーツを通じた共生社会の実現
 - ・障がい者スポーツの普及振興、実施できる環境の整備（障がい者スポーツセンターの設置検討） など
- スポーツを支える環境の充実
 - ・スポーツを支える人材（スポーツボランティア・指導者等）の育成・活用 など
- スポーツによる経済・地域の活性化
 - ・スポーツ・ツーリズムの推進、地域主体のスポーツ活動の活性化、スポーツを通じたまちづくり など
- みるスポーツ文化の醸成
 - ・スポーツ観戦文化の醸成、札幌ドームの活用促進、プロスポーツチームとの連携推進、国際スポーツ大会の誘致促進 など

2030 冬季オリパラ開催後の、
ありたい街の姿（イメージ）

例えば…

- 誰もがスポーツを楽しみながら、心身共に健康で充実した生活を送っているまち
- 年齢・性別・障がいの有無などの違いを互いに認め合い、支え合う共生のまち
- 身近なところでウィンタースポーツを楽しむことのできる環境が充実したまち
- 大規模なスポーツ大会を誘致・開催し、世界から注目されるまち
- スポーツをきっかけに国内外から人が訪れ、地域経済が活性化しているまち

など

【参考①】
第2次まちづくり戦略ビジョン（ビジョン編） ※参考資料3

基本目標⑬ 世界屈指のウィンタースポーツシティ

基本目標⑭ 四季を通じて誰もがスポーツを楽しめるまち

【参考②】
2030 北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会概要（案）
●ターゲット（大会において目指すまちの姿）

分野	ターゲット（大会において目指すまちの姿）
スポーツ・健康	スポーツによる健康で活力のある社会
経済・まちづくり	世界に躍進する魅力あふれるまちづくり
社会	全ての人にやさしい共生社会の実現
環境	次世代が豊かな自然を享受できるまち

●市民・スポーツ関係団体からの意見聴取
※①、②の詳細は資料3を参照

①市民アンケート
対象：18 歳以上の市民 4,000 人

②スポーツ関係団体向けアンケート
対象：スポーツ施設指定管理者
スポーツ協会加盟競技団体
障がい者スポーツ関係団体
さっぽろグローバルスポーツコミッション
※スポーツボランティア関係団体として

③プロスポーツチームからのヒアリング